

琉球藩太平山ニ獨逸回ヨリ同回漂流民救助  
琉球藩立碑建立島民救助  
賜与金碑建立一併

目録

第一號

○省於テ御獨公使ハ琉球屬島ハ漂流人救助ノ為記  
念ノ石碑建立ノ應接記 明治八年五月廿九日

第二號

○省於テ御公使ト前全件ノ應接記 明治八年九月廿  
九日

外務省

第三號

○獨公使ヨリ琉球太平山島海ニ於テ同國船沈没其  
乗組人救助アリシ為全島民ハ贈物品ヲ記念碑設  
立方同地方官ハ布達ヲ請フノ來東 明治八年十月  
十五日

第四號

○太政大臣ハ琉球藩所屬太平山島民ハ獨乙帝ヨリ  
贈物ヲ立碑ノ儀伺テ指令 明治八年十月十七日  
全年十月廿五日

附屬

○碑銘漢文

第五號

○史官ノ前件至急指令ヲ請フ旨ノ往東明治八年十月廿四日

第六號

○内務卿ノ前條同藩ノ通達相成諸事不都合ナキコ  
ノ所量アリ度旨云々ノ往東明治八年十月廿八日

第七號

○獨乙公使ノ前件琉球屬島民ノ同國帝ヨリ惠贈品  
且島民懇篤ノ次第ヲ不朽ニ存セン為メ同島ノ碑  
銘建立ノ趣領諾立碑ノ上ハ永ク保存スベキコ  
致スヘキ旨回答ノ往東明治八年十一月四日

第八號

外務省

○内務卿ヨリ前件照會ノ趣旨全藩ノ通達スベキ旨  
回答ノ來東明治八年十一月五日

第九號

○獨乙公使ヨリ太平山立碑横濱到着ニ目リ那覇港  
ニ差廻シ方同地方官ノ添翰請求ノ書東明治九年二月十九日

第十號

○獨乙公使ヨリ太平山島民ニ贈与スベキ褒賞物受  
納免狀ト通弁官一名差出方請求云々ノ來東明治九年二月廿一日

第拾壹號

○内務卿、前件贈与品、該島建碑ノ儀、地方官ニテ相當ノ助力スベキヨフ全藩、達シ方及ヒ通弁一名乘込ノ儀云々照會ノ往東 明治九年二月廿四日

第拾貳號

○獨乙公使、太平山島民、贈与品受納スベキヨフ其筋、通達碑銘建立ノ場所ハ地方役人助力スベキヨフ下命且同國船、通弁官一名派遣ノ段回答ノ往東 明治九年二月廿七日

第拾三號

外務省

○内務大少丞、琉球屬島民、獨乙帝ヨリ物品贈与及建碑ノ儀、全公使書東廻送取扱向云々通知ノ往東 明治九年二月廿九日

第拾四號

○内務卿ヨリ前件支々、通達并別紙同藩、ノ達書寫添廻送ノ来東 明治九年二月廿九日

附属

○琉球藩、ノ達書

○那覇、ノ館、出張當省官署名

第拾五號

○内務大少丞ヨリ太平山島へ建碑ノ為メ渡航ノ儀同藩出張同省官員ノ達書添確定ノ上至急報知アリ度旨回答ノ来東明治九年三月二日  
○那覇本館出張常省官員人名  
第拾六號

○内務大少丞へ前件回答ノ趣旨取極向云々回答ノ来東明治九年三月二日

第拾七號

○内務大少丞へ前件渡航ノ際同藩人浦崎筑登之乘組出帆ノ都合ニ取計シ段通知ノ往東明治九年三月五日  
第拾八號

外務省

○獨乙公使ヨリ那覇港太平山へ出帆ノ通弁官若暴風雨ニテ戻リ難キ場合ニハ清國へ向ケベキ見込ニ依リ同人帰府ノ諸入費同政府ヨリ差出スベキ旨ノ来東明治九年三月五日

附屬

○在厦門福島領事ヨリ番外公信

○在厦門福島領事へノ公信抜革

第拾九號

○獨乙公使ヨリ太平山島へ建碑花島民へ物品配分濟且出張ノ官員通弁官尽力セシ段謝詞ノ来東明治九年

○ 琉球行畧記 第九年五月十四日  
第貳拾號

○ 獨乙公使館書記官、前件出張ノ通赤官帰路談艦  
ノ便宜ニヨリ清國厦門港、面航右旅費別紙廻送  
ノ往東 明治九年六月十九日  
附屬

○ 清國厦門ヨリ帰路郵船賃并旅籠料調書  
第貳拾壹號

○ 獨乙公使館書記官ヨリ前件旅費金額回送ノ來東  
明治九年六月廿六日

外務省

第貳拾貳號

○ 獨乙公使館書記官、前件旅費受取證書廻送ノ往  
東 明治九年六月廿八日

第貳拾三號

○ 獨乙公使ヨリ同國艦、派遣ノ通赤官尽力セシ功  
勞ヲ謝スル為メ同國帝ヨリ金杖時計一箇贈与ノ  
來東 明治九年九月廿一日

第貳拾四號

○ 獨乙公使、前件通赤官、贈与ノ金杖時計ハ本人  
一付與スベキ旨回答ノ往東 明治九年九月廿九日

第貳拾五號

○獨乙公使ヨリ前件贈与スベキ時計到着ニ依リ送致ノ來東明治九年十一月一日

第貳拾六號

○獨乙公使ノ前件贈与ノ祇時計送致相成則本人ノ附与ノ処深ク感戴別紙受領證書廻送ノ往東明治九年十一月二日

外務省



蔡小石詩

外務本局

紅海圖并

紅海圖并  
○ 琉球の記号は一様にして  
○ 琉球の記号は一様にして  
○ 琉球の記号は一様にして

琉球の記号は一様にして  
○ 琉球の記号は一様にして  
○ 琉球の記号は一様にして

琉球の記号は一様にして

琉球の記号は一様にして  
○ 琉球の記号は一様にして  
○ 琉球の記号は一様にして

覽  
寫濟







外務省

一、この遺跡は、その規模、構造、及び出土品から見て、古墳時代の前期に属するものと推定される。

一、遺跡の北側に、大規模な土坑が認められ、その周囲には、石製の埴輪が散見された。また、土坑の南側に、石製の埴輪が多数出土した。これらの遺物は、古墳時代の前期に属するものと推定される。

一、遺跡の南側に、大規模な土坑が認められ、その周囲には、石製の埴輪が散見された。また、土坑の北側に、石製の埴輪が多数出土した。これらの遺物は、古墳時代の前期に属するものと推定される。

後一色花の...  
少...  
一...  
一...  
一...  
一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

外務省

一...

一...

一...

○

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...

一...





水百三十四号

外務省

本局

脚

記簿句

明治八年九月九日  
付のニシテ...

活字

- 一 〇 八重山島仲統船相の...
- 一 〇 西條現る...
- 一 〇 本海道漁業現る...
- 一 〇 件之訴訟...
- 一 〇 高島ス...

外務省

文

了りて... 碑  
建立... 披示又  
西...

... 碑  
... 碑  
... 碑  
... 碑  
... 碑

手帳  
日記  
...

記録  
...

水百三十四号

外務省

本局

脚

記簿句

明治八年九月九日我が國政府より英政府に送る  
符乙二及共一三三氏ノ答書

明治八年

八年前  
明治八年  
九月九日

○ 公使館より仲役館に相向の部

○ 西條現方より

○ 小幡通海軍現方より

○ 件々訴訟より

○ 高島不承現方より

外務省

文

了りし上は時款可致し急し石碑

建立し之を以て地を有し之を告知又

西條現方より

○

○ 高島不承の事務者ハの如く海軍現方ニ在

○ 在りしハ其の如くハ其の如くハ其の如く

○ 其の如くハ其の如くハ其の如く

○ 其の如くハ其の如くハ其の如く

○

記録簿  
記簿句

何故通商船を以て一隊トテテ人  
其意を以て天皇を以て其の  
セシキ之に經テテテテテテテ  
何トテテテ

外務省  
陸軍省  
海軍省  
文部省  
内務省  
逓信省  
農商務省  
司法省  
文部省  
内務省  
逓信省  
農商務省  
司法省

外務省

此の如くして日清の事  
守る神一といふに鑑別  
近の文部省の次官  
の事

此の如くして日清の事  
守る神一といふに鑑別  
近の文部省の次官  
の事





子年十一月朔日...  
正倉院

少将台所...  
イランニ球...

西條親...  
侯お...

子年...  
美...

三才...  
外務省

出...

年...

三...

...

...

...

いふのふと政府の行はるべき事なるを  
申し

我政府の行はるべき事、昨年と異なるは  
政府の行はるべき事、昨年と異なるは  
松上候へ令を付し、  
控不申候事

我方の行はるべき事、昨年と異なるは  
おらばの事

政府の行はるべき事、昨年と異なるは  
米美の行はるべき事、昨年と異なるは

外務省

小島侯の行はるべき事、昨年と異なるは  
一候の行はるべき事

両侯の行はるべき事、昨年と異なるは  
④政府の行はるべき事、昨年と異なるは

いふの行はるべき事、昨年と異なるは  
いふの行はるべき事、昨年と異なるは

各侯の行はるべき事、昨年と異なるは  
海侯の行はるべき事

小島侯の行はるべき事、昨年と異なるは

美濃は諸山に下りては海に向ふは  
と下りては海に向ふは  
船ト云ふは船ト云ふは  
船ト云ふは船ト云ふは  
船ト云ふは船ト云ふは  
船ト云ふは船ト云ふは

又海に可  
又海に可  
又海に可  
又海に可  
又海に可  
又海に可

外務省

外務省

海軍一國の海軍は  
海軍一國の海軍は  
海軍一國の海軍は  
海軍一國の海軍は  
海軍一國の海軍は  
海軍一國の海軍は

我が國の海軍は  
我が國の海軍は  
我が國の海軍は  
我が國の海軍は  
我が國の海軍は  
我が國の海軍は

海軍の海軍は  
海軍の海軍は  
海軍の海軍は  
海軍の海軍は  
海軍の海軍は  
海軍の海軍は

一〇海軍の海軍は

許諾し併し一々其の如何なる

副参事の務を以て云ふことあり

仲裁ヲ以て云ふことあり

仲裁ヲ以て云ふことあり

副参事の務を以て云ふことあり

仲裁ヲ以て云ふことあり

副参事の務を以て云ふことあり

仲裁ヲ以て云ふことあり

副参事の務を以て云ふことあり

仲裁ヲ以て云ふことあり

外務省

仲裁の付する可き

仲裁の付する可き

仲裁の付する可き

仲裁の付する可き

仲裁の付する可き

仲裁の付する可き

仲裁の付する可き

仲裁の付する可き

仲裁の付する可き

仲裁の付する可き





千八百七十五年 十月十五日  
自獨理復心寺至寺島卿  
大玩球太平山島立碑二件  
意 別紙

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page]*



Kopie anzuordnen gewünscht, die in Santhor und  
Ginsischer Provinz eine Aufzeichnung der Hand,  
sollt und den Reichsboten der allerersten Dombat  
für die von den Inselbewohnern gewünschte Hilfe  
anstellt. Diese Kopie sollte von einem geeigneten  
Held der Insel Tjipisan, oder der Lombung  
stelle der Schiffbrüchigen, aufgestellt werden.  
Gleichzeitig haben seine Majestät befohlen,  
dass eine Anzahl von Goldmünzen und silbernen  
Tropfenmünzen mit allerlei Sachen unter die  
Jungen Inselbewohner verteilt werden sollen, und  
da sich um die Schiffbrüchigen besonders bemüht  
werden soll.

Das Reichswürdige Reich der Kaiserlichen  
Majestät hat mich zum Befehl, die in Rede  
stehende Kopie aufzubereiten und an den Boten  
ihre Bestimmung zu lassen. Derselbe

gest

gest ihrer Gallandung anzuordnen und die Kopie zu An-  
sicht des Reichsboten durch am Reichswürdigen Komman-  
dant nach Goshama überbracht werden. Für die  
Haltung der Kopie ist das Reich dem Hofe der Provinz  
Bermittlung beizulegen das weitere zu verwei-  
senden Herrschaft ganz vorab zu verfügen. Zu  
wissen die Kopie ist sich dem Reichsboten die Kopie  
von Befehlen von dem beauftragten Eintritten  
des Reichswürdigen Kommandanten sowie das  
Landmarche selbst in Kenntnis zu setzen, und  
spricht die bei der Expedition selbst zu beauf-  
tragten Modalitäten zwischen dieser Haltung  
mit dem Reichswürdigen Reichswürdigen Reichswürdigen  
in Einigkeit zu vereinbaren sein werden.  
Gemeinigen dieser Haltung die Reichswürdigen  
gan meiner vorzüglichsten Hofhaltung.

Allehen.

Kaiserlich  
Deutsche Mission  
in  
Japan.

No. 95.

Edo, den 15<sup>ten</sup> October 1858.

*[Faint, mostly illegible handwritten text]*

Die Freie Willkür mit mind.  
lichen Willkürigen in unmündlich bereits bekannt  
ist, haben die Landesherren der Insel Syriam  
sich im Sommer des Jahres 1853 um die Willkür  
der schiffbrüchigen Wanderer, die Sandsten  
Wanderer R. J. Robertson in John Good  
warden, Wanderer. In unmündlich Wanderer  
menschenfreundlichen Wanderer haben Wanderer  
Wanderer der Sandsten Wanderer, Wanderer  
Wanderer Wanderer, in Wanderer Wanderer.

An  
den Minister der Wanderer in Wanderer

Hyron Terashima  
Wanderer

*[Small handwritten mark]*

3-2264

0031

寫濟  
第九拾五号

以書翰致管上侯然ハ先般閣下ニ御談話申  
 御存ノ如ク明治六年ノ夏貴國琉球太平山島  
 海ニ於テ我國高船エトイ、ロベルトソン毀破ノ際島  
 民其業組人ヲ救助シ懇切勞カセシニ依リ其仁厚  
 ノ意ヲ嘉シ不忘ヲ記セシカ為メ我國皇帝陛下  
 我親愛ノ君主碑ヲ立ヘキ旨被仰出ハ則其碑  
 文ハ獨逸文ト漢文トヲ以テシ而シ破船ニ逢ヒ島  
 民周旋ノ事情ト我皇帝陛下島民ノ懇切ヲ  
 感謝スル所ノ事ヲ記載セリ右碑ハ太平山島上  
 相應ノ場所可成ハ難破ノ際  
上陸セシ近傍ヘ建ヘキ積ニ有之具ツ  
 陛下金貳ハ銀ノ袖時規及ヒ望遠鏡ヲ毀破ノ  
 際特別盡カセシ者ニ賜與スヘキ様被仰出ハ依  
 之我國外務省ニ於テ立碑ノ事及ヒ相當ノ場所  
 へ運送スヘキ様拙者へ指令有之ハ最モ碑ハ遠カラ  
 ス峻切スヘリ乃來月ノ初我國小軍艦ニ積入横  
 濱へ著港可致ト存ハ能テハ以來閣下如何様  
 ナル御傍ヲ可被所カ御教示被下度ハ思存ニハ  
 彼ノ太平山島地方官へ預メ小軍艦ト碑ノ著

獨逸帝國公使館

曆萬曆

岬セシ事ヲ御布達可相成方ト存ハ次ニハ  
彌横濱出帆彼島ニ運送スルニ當リ一切ノ  
慮分ハ閣下ト我國公使ト協議可致ト存ハ  
此致可得御意如斯候敬具

獨逸國代理公使

明治八年十月十五日 フォン ホルレーベン

寺島外務卿

閣下

獨逸帝國公使館

申すに事なき

卿  
寺島

補  
山田

本局  
山田

太政大臣三條實義殿 外務卿寺島宗房

琉球藩所属たる島民の被るる皇恩を

賜物并三神の縁

去る乙酉年一冬平 琉球藩の属たる島民

海に打つて國高に居る只ルトノ号に被るる

皇恩の人民を救助す自由及び皇恩

外務省

達

出

腊島濟

島民一統に於ては皇恩の及ぶ所を以て

皇恩の及ぶ所を以て皇恩の及ぶ所を以て

皇恩の及ぶ所を以て皇恩の及ぶ所を以て

皇恩の及ぶ所を以て皇恩の及ぶ所を以て

皇恩の及ぶ所を以て皇恩の及ぶ所を以て

皇恩の及ぶ所を以て皇恩の及ぶ所を以て

皇恩の及ぶ所を以て皇恩の及ぶ所を以て



歲在一千八百七十三年七月間由德國漢布海口駛出兒伊羅被孫夾板船一隻途經太平洋山島海沿誤觸礁石而毀船主亨思噶模暨水手人衆荷蒙被處土人從驚濤駭浪中措諸社席之上且三十四日之款納周旋終如一迨是歲八月十七日歸而述於衆朕聞甚嘉嘉島民之存心仁厚也乃立碑島側俾垂之後世以誌不忘云

大德意志國奉天兼運皇帝布國王威立燕  
御筆

外務省

千八百七十五年 月 日  
自獨書記官クイニ 至奈等佳魯節讀  
大獨逸國皇帝 玩球島ニ於テ建  
意 碑銘 別紙

3-2264

0037



Abdruck.

Inschrift

für das Denkmal auf Typinson.

Zu Juli 1873 ist das Deutsche Schiff  
R. J. Robertson, geführt vom Capitän Herrn  
heim aus Hamburg, von dem Tschu von Sachts  
von Typinson gesondert. Die Begegnung wird  
mit Hilfe der Uferbewohner gewahrt, in kurzer  
Zeit abbracht und während 34 Tagen gütlich verpackt  
genommen, bis sie am 17. August in Ginnwa  
barristen lag. In dankbarer Anerkennung  
dieses würdevollen Kaufmanns Leben

Wir Wilhelm  
von Gottes Gnade  
Deutscher Kaiser, König von Preußen, der  
Aufstellung dieses Denkmals zu bleibender  
Erinnerung anzuordnen.

外務省

任方多事... (vertical text)

一本司

史友

外務大臣丞

琉球藩に属太平山島民に於て國皇帝  
多經に於美三碑之原景月十七日以下  
以るより不遠なる事なる可なり  
少信令之教政に及んば  
也

外務省

明治六年十月廿四日

外務省

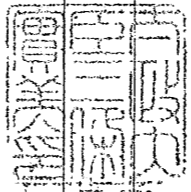


一協議可及此以任其何也  
八年十月十七日 外務省 島宗則

太政大臣三條實美殿

伺之趣閣下候事

明治八年十月二十五日



外務省

紙

歲在一千八百七十三年七月聞由德國漢布  
海口駛出兒伊羅被孫夾板船一隻途經太平  
山島海沿悞觸礁石而毀船主亨思嗜摸  
暨水手人衆荷蒙彼處土人從驚濤駛浪  
中措諸衽席之上且三十四日之款納周旋  
始終如一迨是歲八月十七日歸而述於衆朕聞  
甚嘉島民之存心仁厚也乃立碑島側俾  
垂之後世以誌不忘云

大德意志國奉天兼運皇帝布國主咸立燕  
御筆

外務省

大日本國 明治二十九年十月廿九日

外務省 印

本局

大正保内務省

土守島外務省

去る日六日午一時中 琉球藩の属方なる海防  
打込商船因難之節の爲に民の救助と受け附候こと  
の旨を以て時折海軍艦隊を以て往來する民の救助と表  
示するに宜し 碑を建立せんとすに申出付 建築費  
は 大日本國政府より出資すべし 大日本國政府の旨に  
依りて

外務省

通す所届出の旨を 指示 諸君の御注意を  
請ふ 子系 藩の通す所 東洋 諸君の御注意を  
請ふ 子系 藩の通す所 東洋 諸君の御注意を  
請ふ

明治二十九年十月廿九日

大日本國政府 外務省 印

陸

陸



寫濟

予方不...

...

明 寺山崇則

本局 天

輔 離

本月十五の附坐落以迄の治七年一多中我地球

所屬太平洋海於て坐落商船イロツトソン号因船

之破の救取に自島民の坐落

皇座陛下下全張...

可相成且自島民懇心篤之次第...

自島ノ碑ヲ建之...





寫濟

追々瑞書之趣致承知之也

青五

明治二十二年

内務省

香

一千七百七十四号  
去明治六年琉球藩所属古平崎海之松子  
福色西者船因難之節島民より救助ヲ受ル  
御後トシテ因西官ニ申ヨリ賜品ヲ建碑云々因  
海ニ有る事因西官ノ申達諸事トテ都合云々



千八百七十六年 二月十八日  
自獨辨理使アイゼンハルトン至 寺島 卿  
大 立碑ノ為ノ太平洋山島趣トシテ近ヨリ  
ソロソ船横濱ニ着致スル就テ通譯人  
意 御差加禮度躰出 別紙

3-2264

0048

Gefahr von Goroama nicht zu unterschätzen.  
wird zu vermeiden mit der zur Verfügung  
des Japans durch die japanischen Behörden  
an den Ort ihrer Bestimmung zu schaffen.

Der "Cyclop" wird von Goroama zuwider  
nach Naga Kiang gehen wo ein Dokument  
mit den Befehlen wegen der Modalitäten  
bei Lieferung, beizufolgende. Einmalig  
denkmalig sich mit Einverständnis gehen wird  
und sich von dort aus an Ort und Stelle  
bei.

Die Erklärung der ist das erste  
im Hof der japanischen Herrschaft  
nach Japan, speziell nach den  
Japan

notieren, den Dokumenten der "Cyclop"  
mit Einverständnis der japanischen  
Befehl von Groß-Loochoo resp. Typinsang  
nach und ihm einmalig in der  
sowie der letzten Dokumente  
Kolonne beigefügt.

Japan

Kaiserlich  
Deutsche Minister  
Residentur  
in  
Japan.

No. 13.

Osaka den 18 Februar 1876.

Ihre Excellenz der H. H. Kaiserlichen Ex.  
sehr hochw. Baron von Holleben, vom 15. October  
d. J., betreffend die beschriebene Erziehung einer Ex.  
Lektoral auf der Insel Tjupinsan und unter An-  
gehung auf das europäische gesetzliche Verfahren  
vom 4. November d. J., betreffend die selbe Angelegen-  
heit, befehlt mich Eurer Excellenz ganz ergebenst  
mitzutheilen, dass Hr. Max Schmidt Herrmannsdorff  
„Cyclop“ in dem wöchentlichen Kurier mit der in  
Naha befindlichen Postkutsche von Shanghai in

Oriente

Japan

den Ministern der Obigen Angelegenheiten

Baron Terashima

Excellenz.

3-2264

0050

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

第拾三号 馬濟

目錄付了

客歳十月十五日附日代理公使フオンホルレーベン氏  
書翰并十一月四日附貴簡太平山島立碑ノ義ニ付  
今般我國皇帝陛下ノ軍艦ツイクロープ号同碑  
積込上海出帆近日横濱ニ到着可致ハ就テ横濱  
ヨリ右碑并島民ノ爲メニ兼テ定メラレシ褒賞物品  
ヲ積入レ預メ那覇港ヘ向ケ出帆可致候而シテ同艦  
長立碑場所并稅式等ノ義ニ付同所地方官ニ談判  
ノ上愈立碑スベキ場所ヘ赴キ可申積込依テ右ノ事  
ニ付御周旋ヲ願申ル殊ニツイクロープ艦長ヘ琉球ノ  
顯官欽或ハ太平山ノ地方官欽江ノ詳密懇切ナル

騰寫濟

獨逸帝國公使館

明治九年二月十八日

獨逸國韓理公使

フオン アイゼンデッハル

寺島外務卿

閣下

für die Bewandlung mit welcher hochselbst  
 der Expedition unser Branten hat auf werte  
 sein Amt als Soldat für das Ansehen stellen  
 meinen verbundenen Dank ausdrücken.  
 Ich bewege diese Gelegenheit unser Stellung  
 die Verhältnisse unserer vorzüglichsten  
 hochachtung zu wiederholen.

Mijnvader

千八百七十六年 二月廿一日  
 自獨辨理使至寺島卿  
 大平山島人工賞譽為差遣  
 候遠眼鏡並時計為御試御目  
 意懸ル云々 別紙

3-2264

0052

1  
Anbetracht der vielen Inhabung jener Insel von hier  
die Kolonien der Portugiesischen Regierung zur Annahme  
von im Ganzen 4 Tausend und 8 hundert  
Stück unsterblich schon jetzt mitgeteilt, resp. dem  
Schmucker mitgegeben wurde, damit dieselbe  
den Betroffenen zugleich mit den Gesunden so  
gleich werden kann.

Die ich bereits die Frau sollte immer heilung  
mitteilen, liegt es in meiner Absicht das Por-  
nonnoot zuweilen Kawa Kiang ankommen zu  
lassen, damit dort der Kommandant bei der  
obersten Beförderung des Liukiu Han zuweilen von hier  
nach Mission Anzeigen ansetzen und so einen der  
Liukiu. Nicht das einzige Schmucker, von dem  
nehmen kann.

Daß die Christianisierung das Land nicht unberührt  
so würde es sich meiner Absicht nach angehen, wenn  
der Kommandant seiner Heiligkeit Kommandant  
in

in Typinsan angekommen, sich mit den Beförden  
nicht zuletzt über den Ort und die Zeit der Auf-  
stellung der Insel mit dem Kommandanten setzte.  
Nach Beendigung der vorbereitenden Arbeiten  
würde es dann ein Weg zu verfahren sein,  
um welchen die feierliche Erfüllung und Über-  
gabe derselben an die Beförden das Best steht  
zustehen sollte.

Im Hinblick darauf möchte immer heilung ich ganz  
angehen, vorzuziehen zu wollen, daß  
die Regierung von Typinsan in geeigneter Weise  
sich über den Ort und Zweck der Landmalt be-  
lehrt werden, damit sie für Erfüllung  
derselben als eine Erinnerung an die man-  
schenfreundliche Hilfe welche sie schiffbrüchigen  
Landesleute gebracht haben angeordnet werden  
kann.

Hilfsweise werde ich mich immer heilung  
für



Kaiserlich  
Deutsche Minister  
Residentur  
in  
Japan.  
No. 16.

Edo den 21. ten Februar 1876.

Im Auftriff von einem gestern An-  
kündigung mit dem Laboroir im Kaiserlichen  
Amt, Herrn Okara, in Betreff der Fortführung einer  
Gedankensatz mit Typinsan, dessen Fortführung  
ich mich zu beauftragten. Daß dieser Majestät  
Kronenbuch "Cyklop" in etwa 5 Tagen in Yokohama  
ankommen wird, um noch einem Aufsatze von einer  
Worte noch einzeln abzugeben.

In der Anlage übersende ich Ihnen Fortführung der  
Proben der Fortführung für den Fortführung von Typinsan  
zur gefälligen Ansicht und mit der ganz neuen  
Litho-Litho, vorzubereiten zu wollen, daß in  
Anbetreff

Im  
Den Minister der Kaiserlichen Angelegenheiten  
Herrn Teraakima  
Fortführung

3-2264

0054

目録付了

輔  
蝦島

天章

弟指古多  
以書物致啟上表然者昨。外務省より大原  
氏方解ノ義は初傳ニシテ多國軍艦ツイクロー  
ア号方々より吾留ニ移居到着可成而シテ  
港ニ週留遊泊、後出航可成吾留海軍  
長官等、大原山島民ニ賜與スルニ義也

藤島

獨逸帝國公使館

袖時規ハッ受納スベキ義、往免状ヲ前以テ御準  
備下サレ御都合ニ依リ貴國通辨官ニ右ヲ御渡置  
下サレ何レモ贈與物品ト同時ニ右御免許状ノ相届  
ハ様願度且又拙者ノ見込ニハ兼テ閣下ニ申上置  
通右軍艦ハ那霸港ニ向ケ出發致スベク而シテ同  
港到着ノ上同艦長ハ今般是ノ著業ノ主意柄ヲ  
具サニ同所頭官ニ報知致シ且ツ和語玩球語ニ通  
シタル人ヲ携ヘ同港ニ到着スベキ様指令致シ可申ト  
存ハ尚拙者ノ存意ニハ艦長太平山ヘ到着ノ上  
碑建築日限并同断場所ノ義ヲ地方官ニ協議  
致スベク且ツ碑建築竣功ハ上祝式ヲ舉ケ之ヲ頭  
示スルノ日限及ビ右碑ヲ地方官ニ相渡スベキ日限ヲ  
協議可致ト存ハ閣下島民ニ今般立碑ノ趣

目録付了

芽拾六号 馬渡

目録付了

騰馬渡

以書簡致啓上候然ハ昨日外務少丞大原氏  
 立碑ノ義御面晤ニ付我國軍艦ツイクロープ  
 号今ヨリ五日間ニ横濱到着可致而シテ同港ニ  
 週間碇泊ノ後出帆可致旨御通知申候就テハ  
 太平山島民ニ賜與スベキ褒賞物品見奉トシ  
 テ三品御覽ニ入申候而モ同島ハ之レヨリ遠隔ノ地  
 タレニ因テ貴政府ニテハ島民ノ惣計望遠鏡四ツ  
 袖時規ハツ受納スベキ義ノ御免状ヲ前以テ御準  
 備下サレ御都合ニ依リ貴國通譯官ニ右ヲ御渡置  
 下サレ何レニモ贈與物品ト同時ニ右御免許状ノ相届  
 獨逸帝國公使館  
 以様願度且又拙者ノ見込ニ兼テ閣下ニ申上置  
 通右軍艦ハ那霸港ニ向ケ出發致スベク而シテ同  
 港到着ノ上同艦長ハ今般是ノ著業ノ主意柄ヲ  
 具サニ同所頭官ニ報知致シ且ツ和語玩球諾ニ通  
 シタル人ヲ携ヘ同港ニ到着スベキ様指令致シ可申ト  
 存ハ尚拙者ノ存意ニ艦長太平山ハ到着ノ上  
 碑建築日限并同断場所ノ義ヲ地方官ニ協議  
 致スベク且ツ碑建築峻切ノ上祝式ヲ奉ケ之ヲ頭  
 示スルノ日限及ビ右碑ヲ地方官ニ相渡スベキ日限ヲ  
 協議可致ト存ハ閣下島民ニ今般立碑ノ趣

Handwritten notes in cursive script, likely a translation or commentary on the main text. Includes several red seals.

意一我國船遭難ノ際太平山島民其ノ乘組人  
ヲ救助シ懇切勞力セシニ依リ其仁厚ノ意ヲ嘉シ  
不忘ヲ記シ以テ永ク其徳切ヲ保存センガ爲メ也  
以テ篤ク御説諭被下ル様希望致ル者又速ニ貴  
省役員ヲ通辨官トシテ當館へ御差出被下ル  
御懇篤ノ段厚ク御禮申上候此段得實意  
候敬具

明治九年二月廿一日

獨逸國辦理公使

フオシ アイゼンデッヘル

獨逸帝國公使館

寺島外務卿

閣下





寺島則  
馬

三ノノケル  
達濟

寺島則

本局齋

聖

好為事之必可也

以子孫改葬事、然此之世、其宗室之

下、其各諸國、滿所、唐、右、左、山、島、民、一、望

在、境、に、國、神、の、斗、の、國、は、知、る、お、本、の、存

語、自、其、の、於、る、事、物、を、改、葬、す、お、本、の、存、す、十

三、神、の、本、の、出、す、所、の、以、て、免、本、三、の、お、本、の、存、す

の、世、に、改、葬、す、お、本、の、存、す、お、本、の、存、す

十一

3-2264

0060







Handwritten signature and date: 明治九年六月廿一日

本局 天原

内務省 事務次官

陸 藩 高 齊

外務省

Main body of handwritten text in vertical columns, containing the official communication.

甲寅八月廿三日

外務省

陸軍省

海軍省

文部省

逓信省

農商務省

内務省

外務省

〃

九月一日

3-2264

0065

寺島宗則

輔

外度第廿二号

獨逸國 皇帝 御 玩球 藩 存 島 民 之 為

名 賜 兵 及 建 碑 之 儀 方 同 國 公 使 之 書

船 亦 賜 兵 之 物 品 以 廻 送 之 故 同 國 軍 艦

大倉

寺島



寫濟

琉球藩

其藩所屬太平島海於先年弱迄國高  
 船難致之長島氏ヲ救助シ受テ謝禮トシテ  
 曰國政府ヲ金銀時計等送鏡等贈與且國難  
 之際島民之懇言ヲ表シテ建碑以爲名曰國  
 公傳り申立門海あり本年之般曰國軍艦ツイロリ  
 号又港一泊少帆艦長ヲ救ハ物心おほ海々等  
 島地致之島民之懇言ヲ表シテ建碑以爲名曰國  
 又藩之友協儀之條無差支可取計將又同國  
 通辨トシテ好義者九等出仕山村一歳被差遣儀行  
 あり之藩吏之内和語ニ通シ者一人相撥ニ太平島  
 廻船之節同船一乘組ニセ諸事一不都合なき事

内務省

丁亥十一月廿七日

内務卿大久保利通



別紙

圖

那覇公館出張省官員

九等出仕 福崎 孝連

中録 河原田 盛美

十二等出仕 青木 孝亮

十二等出仕 時任 義常

内務省

3-2264

0069



三十一日

有る事なり

の物次第なり

物次第なり

物次第なり

物次第なり

物次第なり

物次第なり

物次第なり

外務省

物次第なり

物次第なり

物次第なり

物次第なり

物次第なり

物次第なり

物次第なり



明治三十一年  
三月廿七日

本局

内務省が、  
おのり、

おのり、  
おのり、

おのり、  
おのり、

おのり、  
おのり、

おのり、  
おのり、

おのり、  
おのり、

おのり、  
おのり、

外務省

おのり、  
おのり、

おのり、  
おのり、

おのり、  
おのり、

おのり、  
おのり、

九年三月廿七日

謹

勝

千八百七十六年 三月五日  
自獨懸後イセテル 至 寺 島 卿  
大 太平嶋到徳シヨク船中ヲテ邊ニ寄候事  
其節風波ニテ再ニ當地迄來船ニ能ハル通船  
意 山村様實事別紙

3-2264

0072

In Luonta, Herr Yamamura, hat sich mit dem  
Kanonbootungeschiff; selbst Kind und Mutter  
dem Kommandanten, Lejitaru-Saitanent  
von Reiche, nicht gestanden, sondern nach Japan  
zurückzubringen, so wird meine sehr Begierde  
die Kosten für meine Rückbeförderung von Amoy  
nach Foochow sein, worin das Kanonboot ab-  
kommen zu Japan beabsichtigt, verhalten.

Yamamura

Kaiserlich  
Deutsche Minister  
Residentur

in  
Japan.

No. 19.

Yedo den 5. März 1876.

Für die Erfüllung dieser ist mich  
in der Form des gefälligen Memorials vom 27.  
Februar ganz unbedingt anzusehen.

Einem der japanischen Dampfschiffe  
Cyclops wird seit Yokohama zu lassen und sich  
über Nawa Kiang nach Taicinsan begeben.

Der von dieser Erfüllung  
abhängt als Dolmetscher zur Aufbringung gefäll-  
ig

Ob

von dem Minister der Anwesenheit der Anwesenheit

Herrn Terakima

Erfüllung.

3-2264

0074

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>

目録了

獨逸

天章

第拾九号  
以書翰多致謝其意其客月廿七日  
致落手其物テハ奈國少軍艦ツイクローブ  
号ノ名日掃原ヨリ那覇港太平山ノ向  
出帆致之且中懇切ヲ以テ通稱トモテ  
致謝ス

騰寫濟

込有之候然ル時ハ山村氏其所ヨリ東京へ歸  
府ノ諸入費我政府ヨリ可差出候因テ此致  
得貴意候敬具

獨逸帝國公使館

明治九年三月五日

獨逸國辦理公使

フォンアイゼンデッヘル

寺島外務卿

閣下

致書翰致啓上倏然ハ客月廿七日ノ貴翰  
致落手候就テハ我國小軍艦ツイクロープ號  
今日横濱ヨリ那霸港太平山へ向ヒ出帆致  
シ且御懇切ヲ以テ通辨トシテ被遣ハ山村氏モ  
同艦へ乘組相成ハ諸右軍艦長海軍少佐  
フオンライヒエ氏ハ暴風雨ニテ貴國へ戻リ難キ  
場合ニ清國アモイ或ハフチヨ一へ向ヒ可申見  
込ニ有之候然ル時ハ山村氏其所ヨリ東京へ歸  
府ノ諸入費我政府ヨリ可差出候因テ此致  
得貴意候敬具

茅拾抄 寫濟

日録付了

騰寫濟

以書翰致啓上倏然ハ客月廿七日ノ貴翰  
致落手候就テハ我國小軍艦ツイクロープ號  
今日横濱ヨリ那霸港太平山へ向ヒ出帆致  
シ且御懇切ヲ以テ通辨トシテ被遣ハ山村氏モ  
同艦へ乘組相成ハ諸右軍艦長海軍少佐  
フオンライヒエ氏ハ暴風雨ニテ貴國へ戻リ難キ  
場合ニ清國アモイ或ハフチヨ一へ向ヒ可申見  
込ニ有之候然ル時ハ山村氏其所ヨリ東京へ歸  
府ノ諸入費我政府ヨリ可差出候因テ此致  
得貴意候敬具

獨逸帝國公使館

明治九年三月五日

獨逸國辦理公使

フオン アイゼンデッヘル

寺島外務卿

閣下

陸



公使

庶務

五月十日

書外  
今般中者九号山仁山村一號福國軍艦の請求を  
該艦を委託運輸に便安事を早業歸航該艦  
便宜を依り廿七号港、事着言上海、上海地  
方、該艦を依り廿七日郵船接、上海、上海  
船、就、上海、旅費、福國領事、上海、  
在厦門日本領事館一切、旅費、福國領事、  
該國、旅費、福國領事、上海、  
福國領事、山村、旅費、福國領事、  
と、則、旅費、福國領事、  
付、旅費、福國領事、

在厦門日本領事館

五月十一日

五原領事 藤原

鮫島外務大輔殿

寫丁





公信局

輔

公信局

四月廿六日

第拾三號 在廈門福島領事公行

四月十一日附番外月報乙事... 四月廿七日... 按の番外... 其の度... 四月廿五日... 承

外務省

本月四日... 華盛頓

六月... 華盛頓

...

四月... 彼時... 四月... 四月...

四月... 四月...

公言局

輔

公信局

四月十日

二項

二號

在廈門福島領事館

四月十日附番外務省之事務

四月十日附番外務省之事務

四月十日附番外務省之事務

四月十日附番外務省之事務

四月十日附番外務省之事務

四月十日附番外務省之事務

外務省

本月四日附番外務省之事務

華盛頓及彼時之記

四月十日附番外務省之事務

四月十日附番外務省之事務

四月十日附番外務省之事務

四月十日附番外務省之事務

四月十日附番外務省之事務

四月十日附番外務省之事務



付内閣府の令に依りて建設省の事務を  
内閣府に委任し得る事とす

内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

建設省の事務を内閣府に委任し得る事とす

外務省

From the 1910s

千八百七十六年 五月十四日  
自獨辨理使多志至寺島卿  
大 太平山建碑一條相濟候ニ付  
謝禮申出  
意

別紙

3-2264

0081

Auführung der Mitsunobu'schen Harjasshi des  
Lüpfen Beriters bewilligten Gapsunken  
Lüpfen wartet fort.

Der genannte Kommandant  
spricht sich bei dieser Gelegenheit in dem nämlichen  
den Anordnungen über die Einbauverpflichtung  
und das Aufgehören der Gapsunken  
Lüpfen in Sukiin und der dortigen  
Lokalbeförden aus und hat mich vorzugsweise  
die aufgeführten Gapsunken und Kaku Einbau-  
würdigen Bewilligung des von Lüpfen  
Lüpfen gültig zur Aufhebung gestallten

Solmatsuro

Solmatsuro's Herr Yamamura Juro.

Hoch bevor ich den Lüpfen der Lüpfen-  
von Reiche zur Einbauverpflichtung  
bringen, ist es mir schon jetzt schon ganz besonders  
Lüpfen, Lüpfen Lüpfen Lüpfen zu geben  
und meinen verbindlichen Dank sowohl für  
die Abordnung des Herrn Yamamura als  
auch für die von ihm Beförden in Sukiin gewährten  
Ansprüchen ganz ergebenst anzuerkennen.

Ich benütze die Gelegenheit, Lüpfen Lüpfen  
Lüpfen die Aufhebung meiner vorzugsweisen  
Gapsunken zu erneuern.

*[Signature]*

Kaiserlich  
Deutsche Minister  
Residentur  
in  
Japan.  
No. 47

Yedo den 14. Juli 1876.

Ihrer Excellenz befehle ich mich  
ganz ergebenst mitzutheilen, daß der Kommandant  
des Deutschen Kanonenboots Cyclops mit über die  
erfolgte Anfertigung des zum Ankerbau von der  
Küstung der Kumpfsee des gestrandeten deut-  
schen Dampfers Robertson gefertigten Ankermals  
auf der Insel Saipinsan herein über die Her-

Oh

Geilung

dem Minister der Christenversorgen Ohnjungunfuten  
Herrn Terashima  
Geilung

御  
寺島  
欽高

第四拾七号

以書翰致慰之者然者奈國中軍艦ツイクローフ号  
艦長獨逸國商船ロベツソレ号難船ニ舟人救助  
遂之之ガ不忘ヲ記セシ為メ太平山島へ碑ヲ相建テ  
及々奈國

皇帝陛下ニ賜典スベキ物アル配分相済

御差越相成候候負山村氏ハ盡カシテ難事

務ヲ被扱別テ添々感賞致シ候借テ右艦長

獨逸帝國公使館

海軍少佐フオンライヒ氏ノ報告我國政府ニ奉

上スル前ニモ兼テ閣下へ御報知致シ及ヒ山村氏

御差遣ノ件其他琉球ノ官吏へ御達ノ指令亦

奉テ御禮申述候此段得貴意候敬具

明治九年五月十四日

獨逸國辦理公使

フオン  
ライヒ  
フォン  
ライヒ  
フォン  
ライヒ

寺島外務卿

閣下

騰寫濟

同録付了

六ヶ所... 寺島外務卿... 閣下

第四拾七号 獨逸

目錄付了

以書翰致啓上候然ハ我國小軍艦ツイクローフ  
号艦長獨逸國商船ロハツソン号難船シ舟人  
救助ニ逢ヒ之レガ不志ヲ記セシ為メ太平山島へ  
碑ヲ相建テ及ヒ我國

皇帝陛下ヨリ賜與スベキ物品ヲ配分相濟候  
旨報告有之候間此旨閣下へ申進候就テハ同艦  
長ニ於テ琉球ニ在留スル貴國役員并ニ其地方官  
ヨリ懇篤ノ志ヲ表サレ殊ニ閣下通譯官トシテ  
御差越相成候候負山村氏ハ盡カシテ懇ニ事  
務ヲ被扱別テ添テ感賞致シ候備テ右艦長

勝寫濟

獨逸帝國公使館

海軍少佐フオンライヒ氏ノ報告我國政府ニ奉  
上スル前ニモ萬テ閣下へ御報知致シ及ヒ山村氏  
御差遣ノ件其他琉球ノ官吏へ御達ノ指令亦  
厚ク御禮申述候此段得貴意候敬具

明治九年五月十四日

獨逸國辦理公使

フオンライヒ

寺島外務卿

閣下



九月

琉球行畧記

明治九年三月四日獨乙國小軍艦ヲクロイブ号  
乗ル。○琉球人浦尋筑登之本國迄ノ便船ヲ請フ  
船將之ヲ諾ス

五日横濱ヲ出帆ス

十二日琉球那霸港ニ着ス。クロイブ号ノ士官  
ヅボア「氏」ト共ニ内務省出張所ニ至リ琉球藩  
王ニ對面ノ「フ」ヲ談シ明日返答アリ。ン「フ」ヲ約シ  
テ再ヒ船ニカヘル

十三日午前十一時頃藩王ヨリ琉球官人一名ヲ

外務省

シテ山羊、豚、雞、野菜、雞卵ヲ携ヘシ。内務省官員  
河原田盛美氏ヲ介シテ共ニ船中ニ至リ見舞ト  
シテ船將ニ贈レリ。船將之ヲ受納ス。○時ニ河原  
田盛美氏琉球藩王病ニ罹ルカ故其叔父伊江王  
子之ニ代リ船將ヲ「フ」シテ「ハ」氏ニ面會ヲ請フ。ノ  
由ヲ述ヘタリ。因テ直ニ船將ヲ「フ」シテ「ハ」氏一等  
士官「フ」シ、タル「ハ」氏「モ」イ「ス」氏醫士「ハ」タル  
ト子「ハ」氏會計官「ハ」ル「ホ」ル「ン」氏外ニ水夫三名  
河原田盛美氏ト共ニ午後二時頃首里ニ至リ藩  
王ノ叔父伊江王子ニ對面ス。内務省官員種子島

修考

青木、時任氏琉球官人三名此坐ニ陪侍ス礼終テ  
 船將ヨリ先年太平山島ニ於テ同國船難破ニ逢  
 ニシ節救助ヲ受ケシヲ謝シ且今般同島へ建  
 碑ノヲ述へ獨ニ皇帝陛下ヨリ、贈物ヲ出シ  
 藩王へ望遠鏡一箇金時計一箇碑銘横和文二葉  
 ヲ贈リ伊江王子へ望遠鏡一箇金時計一箇ヲ贈  
 リ挨拶終リテ藩王ヨリ酒肴ヲ供ス船將伊江王  
 子ニ對シ船中ニ至ラシテ請フ伊江王子之ヲ  
 諾シ四時頃船中ニ至ラシテ約シ別ヲ告ケテ  
 去レリ〇四時過伊江王子并ニ琉球官人二名内  
 務省官員三名外ニ隨從ノ者數十人船中ニ至リ  
 船將ニ面略シ碑石并ニ大砲等ヲ一見シ終テ船  
 將ヨリ酒菓子ヲ供シ暫時ニシテ去レリ  
 十四日出帆ノ處大風ニテ一日延引ス船將内務  
 省出張所へ赴キ出張所ニ於テ酒肴ヲ供ス船將  
 ヲリ通弁一名水先案内一名兼組ノヲ出張所  
 官員ニ託セシニ因リ右官員ヨリ左ノ二名ヲ薦  
 メリ

外務省

通辨

水先案内

多加良親雲上

永田筑登之

琉球藩王ヨリ船將并ニ士官へ織物及焼酎ヲ贈  
ラシテ請フ船將辞シ受ケズ  
十五日那覇港ヲ出帆ス多加良親雲上ヨリ船將  
へ頼ニテ外ニ琉球人一人大平山迄ノ便船ヲ請  
フ船將之ヲ諾ス  
十六日午前十一時大平山ニ着ヌ多加良親雲上  
直ニ上陸シテ建碑ノ事ヲ同島官人ニ通知ス午  
後二時頃同島官人三名船中ニ来リ山羊雞野菜  
ヲ贈リ海上安全ヲ賀ス  
十七日同島官人ト建碑ノ地所ヲ撰ニ漲水泊港  
ノ丘陵ノ半腹ヲヤゲシ道ノ側ニ地ヲトス同島  
ヨリ人豆ヲ出シ船中ノ水夫ト共ニ船載セシ碑  
石ヲ運送ス  
二十日基石ヲ据へ其底ニ小銅管ヲ埋メ管内ニ  
和横文ニ葉ヲ入レ銘鉛ヲ以テ管口ヲ密封ス其  
和文ニ曰  
千八百七十三年七月獨乙國船工ハムロベル  
トソン号難破ノ節大平山島民ヨリ救助ヲ受  
ケ且懇親ニ取扱ハレタル恩儀ヲ後世ニ至ル  
迄忘却セサシムガ為ノ獨乙皇帝陛下ノ救命

外務省



ニ因テ同國軍艦「ア」号ヲ本島ニ発遣  
セシメテ千八百七十六年三月二十日「ア」号  
「ア」号船將「ア」氏ヲシテ此ニ建碑セシ  
ムルモ、也

「ア」号乗組人員  
本島官人

連名

二十一日建碑落成ス總高サ十一「フ」ス基石ノ高  
サ一「フ」ト「ル」幅大凡ニ「フ」ト「ル」ナリ  
千八百七十三年七月獨乙國船「ア」ノ「ア」ノ  
「ア」ノ「ア」号大平山島ノ海岸ニ於テ難破ニ逢ヒ  
シ節同船乗組ノ人員同島ノ人民ヨリ救助ヲ

外務省

受ケ且懇切ナル取扱ヲ受ケタルヲ以テ獨乙  
國皇帝陛下ヨリ大平山島民ニ其謝詞ヲ述シ  
カ為メ同國軍艦ヲ本島ニ発遣セシメタリ  
太平山島民ノ懇親ナルヲ謝シ且後世ニ至  
ル迄恩儀ヲ忘却セザランカ為メ獨逸國皇帝  
陛下本島ニ一ツノ碑石ヲ建立セシメ其レニ  
文字ヲ刻シテ其意ヲ表セシム  
獨乙國軍艦「ア」号乗組ノ者本島ニ此  
碑ヲ運送シ同船乗組ノ者此ニ碑銘ヲ立テ獨  
乙國皇帝陛下ヨリ、謝礼トシテ大平山島民

ニ與フルモナリ  
 同島官人ニ右碑石ニ関シタル書類ヲ相渡シ  
 且官人并ニ島民等此碑石ヲ長ク保存セシ  
 ヲ請フ  
 數千里モ隔絶シタル西土人民ノ間ニ於テハ  
 教法凡俗モ自カラ均シカラズト雖モ互ニ親  
 シク相敬シテ久シク信義ヲ守ラシヲ實ニ  
 希望スル所ナリ  
 祝礼終テ獨乙皇帝陛下ヨリ、贈物ヲ出シ同島  
 官人六名ニ望遠鏡或金銀時計ヲ賦與シ且今日  
 獨乙皇帝陛下ノ生誕日ナルヲ以テ太平山在勤  
 ノ官人二名并通辨多加良親雲上ヲ船中ニ招キ  
 午餐ヲ供ス  
 二十三日船將同島ノ官人ニ別テ告ケ海路ノ危  
 難ナルヲ以テ太平山島ヨリ洋中迄水先案内ヲ  
 請フ因テ永田筑登之及ヒ同島ノ者一人ヲク口  
 一ノ号へ明日乘組ノヲ約ス○多加良親雲上  
 近日同島ヨリ琉球へ便船アルガ故其船ニテ歸  
 島センヲ速ニ此地ニ於テ離別ス  
 二十四日午前七時太平山島ヲ出帆ス水先案内

外務省

ニ名途中ニ於テ別ラ告ク船將ヨリ右西人ニ謝スル左ノ如シ

洋銀 十弗

永田筑登之

琉球ニテ産ヒ

同 四弗

宮古島ニテ産ヒ

此ヨリ八重山島及ヒ臺灣島ヲ經テ支那厦門ニ着シ此地ニ於テ列クロリ「号」船將「アオン」テイハ氏ト分袂セリ

外務省

校齊

明治九年三月十九日

一 福廷國公使館之書箱

無号

以書箱發給上之御名貴國軍艦ツイクローブヲ派來航海府  
通商之者由請求之依テ當省九等出仕山村一藏日艦入為  
乘船之者由請求之依テ當省九等出仕山村一藏日艦入為  
付四月七日同化ヨリ上陸致シ同日十下郵船ニ乗リ上陸シ  
後テ五月四日帰来日人ヨリ右歸路旅費前所ニ送リし由  
此旨以區得之云々致具

明治九年六月十日

外務大臣至

福廷國公使館

書記官

古中

外務省

第二十号

校齊

九等出仕山村一截法園厦門ヨリ歸路郵船賃  
手旅籠料廻

洋銀九拾五五セント

金控五圓五拾銭

四

洋銀拾五

此年四月十日ヨリ十日迄法園厦門  
門降ヨリ旅籠料

洋銀四拾

法園厦門ヨリ上野也郵船賃

洋銀五拾五セント

同 傳 賃

洋銀五拾五セント

此年四月十日ヨリ十日迄上野也  
ヨリ中 旅籠料

洋銀三拾五五五セント

法園厦門ヨリ上野也郵船賃

洋銀五拾

是旅ヨリ上野也傳賃

金七圓三拾銭

此年四月十日ヨリ十日迄長崎  
ヨリ中 旅籠料

外務省

金五拾銭

長崎港傳賃二度分

金五圓七拾銭

日有月三十四日外務省  
旅籠料

金三拾六銭

神戸港傳賃二度分

金五圓

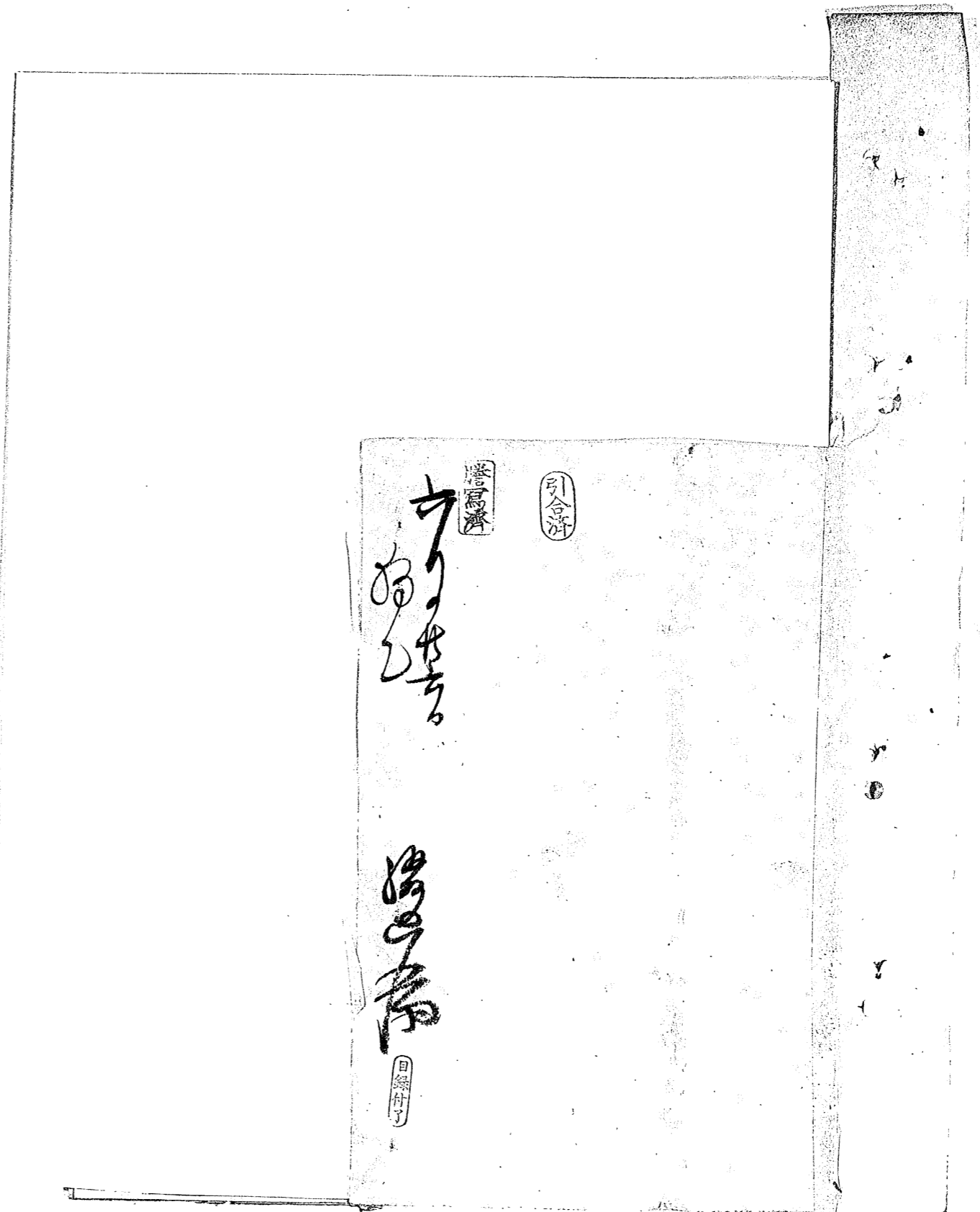
長崎ヨリ長崎代官傳賃

金五圓

長崎小東島也傳賃

ノ





3-2264

0094

Vertical text on a small rectangular label at the top center of the page.

Vertical text on the right side of the page, possibly a signature or date.

以書簡致皇太后陳立統

球航海我國軍艦

ツイクロープ号へ為密報

天皇陛下の貴省

3-2264

0095

山村一節及清國

厦門ヨリ歸路旅費

別紙に調書並に添付

出書系多変目あり秋國

公庫に納系並に送る者

中支刻洋銀九拾弗

六拾五セント金拾壹圓

九拾後送附

3-2264

0096

此後如有不便之處  
請即告知

受取證書之中國政

府之送達之政

下之教別我橫文

文之證書へ山村氏

此調平之上は

下發之有海軍

切之は有謝

回答仍責之敬矣

此後各口皆不能言右

受取證書之中國政

府之送達之政之旨

下出子教別我模文

交之證書へ山村氏

切之信有謝誠文

回答仍責之旨敬矣

明治九年六月廿六日

3-2264

0098

明治九年六月廿六日

獨逸國公使館

書記官

外務大臣函

中

3-2264

0099

長崎

長崎

本局

印

明治二十二年 七月

本月廿三日、伊予守官、以て之、段中、守軍、經  
つり、る、り、つ、り、の、事、を、以、て、商、者、を、欠、少、す、り、は、是、に、  
國、庫、の、事、に、由、り、し、る、事、乃、洋、銀、の、程、元、之、  
其、事、を、全、額、を、因、り、し、る、事、に、由、り、し、る、事、  
此、事、を、乃、此、事、を、以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、  
の、事、を、以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、以、て、

外務省

3-2264

0100

第百五十五號

千八百七十六年九月廿一日  
自獨辨理復<sub>を</sub>至<sub>る</sub> 敷島大輔  
大 太平山建碑ノ節通辨致候  
山村<sub>ニ</sub>謝物ヲ贈ル云々

別紙

3-2264

0101



Handwritten header text, possibly a date or recipient information.

Handwritten number or mark, possibly '64'.

Sir das freundliche Aufgebot von dem  
Kaiserlich Japanischen Hofe in der  
inoffiziellen Angelegenheit nach dem  
ganz besonders durch die  
Gabe

Indem ich mich dieses angenehmen  
Tages mit Herkommen erlaube, besse  
Lieber Herrschaft ich mich gleichzeitig ganz  
ergötzt mit zu schicken, daß die  
jetzt die deutsche Kaiserin gewiß haben  
den von Ihrer Herrschaft Regierend t. 3t.

Sir

Sir die Japanische Expedition zur  
ganz gestalteten Volkstümlichen Land  
mura in Oberbayern seiner Herrschaft  
eine goldene Kaiserin mit aller  
seiner Herrschaft. Giffen und  
verleihen.

Ich werde nicht verfehlen die  
bald die Herrschaft für eingetroffen sein  
wird, zu übersehen und beistehen die  
Inhalt der Herrschaft der Herrschaft  
sich von dem vorzüglichsten  
Anfang zu wiederholen.

Handwritten signature or name.

3-2264

0102

KAISERLICH DEUTSCHE  
MINISTER RESIDENTUR  
IN JAPAN.  
No 105.

Yedo, den 21. September 1876.

Unser Herrungsjahr Regierungsette  
ist bereits in dem im dem Schreiben vom  
14. Mai d. J. N. 47 für die dem Com.  
mandanten des Schiffes Danonau.  
booter Cyclop bei Fortsetzung des Deut.  
mals auf der Insel Japinsan gesandt,  
zu Unterstützung mancher Deut. anzugeh,  
gegangen.

Herr dem Herr Reichsanzler durch den

den Bismarck bei dem Minister beauftragt,  
für

den Hiera. Schriftar  
der Kaiserpartijer Aufgabegesicht  
Herr Jameshima  
Leitung.

3-2264

0103

目録付了

弟る本号  
以重福多事之熱心本号本号  
年四月十七日書翰以テ奉  
禮ウイコロブキ禮表を山守  
キ國以存身懇切之は世に  
ルチ百子ク日禮キ上之事ハ熱心要ク級

騰寫

將又獨逸國皇帝陛下ハ貴政府ニ於テ太平山  
事業ノ為ノ爲通辨御發遣相成候山村氏ノ  
盡力ナル功勞ヲ感賞シ爰ニ皇帝ノ名諱ト  
冠章トヲ彫刻シタル金袂時計一個ヲ賜與  
スベキ旨被仰出候間右時計到着次第直ニ  
御送致可申候右ハ宜敷御領承被下度此段  
得貴意候敬具

獨逸帝國公使館

明治九年九月十一日

獨逸國辨理公使

フオンアイゼンデッヘル

鮫島外務大輔

閣下

Handwritten notes in cursive script, likely a transcription or commentary on the main text.

第百五号 馬濟

目録付了

以書翰致啓上候然ハ本年五月十四日付第  
 四十七号書翰ヲ以テ我國小軍艦ツイクローブ  
 号艦長太平山建碑ニ付貴國政府御懇切  
 ノ御世話被成下候ヲ辱ク御禮申上置候然ル處  
 今般我國宰相フイルスト、フオンビヌルク氏ヨリ  
 貴國官負懇懇ノ心意ヲ表ハサレ候ニ付尚特殊  
 ノ御禮申上候様指令ヲ受ケ候間乃テ申述候  
 將又獨乙國皇帝陛下ハ貴政府ニ於テ太平山  
 事業ノ爲ノ爲通辨御發遣相成候山村氏ノ  
 盡力ナル功勞ヲ感賞シ爰ニ皇帝ノ名諱ト

騰寫濟

獨逸帝國公使館

冠章トシ彫刻シタル金袂時計一個ヲ賜與  
 スベキ旨被仰出候間右時計到着次第直ニ  
 御送致可申候右ハ宜敷御領承被下度此致  
 得貴意候敬具

明治九年九月廿一日

獨逸國辨理公使

フオンアイゼンデッヘル

鯨島外務大輔

閣下

馬濟

輔卿 名

局 局 局

九ノ月九ノ日

予等千ノ事

おのれに今附置島を備宛に物取給りて侍を

其國に在艦アソロノ号船長陸陸島古守の中

碑に於て我政府の在る事道に及て信託し下らぬ

之國に在るフルスト、アソロビニシラ下の特許は御國

に於て其の又その國に在る僅下の我政府の在る

通系を千、山村一藏ノ御方より其の實に御金

外務省

被討行一個下の御方より其の實に御金

予等千ノ事

其國に在るフルスト、アソロビニシラ下の特許は御國

に於て其の又その國に在る僅下の我政府の在る

通系を千、山村一藏ノ御方より其の實に御金

予等千ノ事

おのれに今附置島を備宛に物取給りて侍を

其國に在るフルスト、アソロビニシラ下の特許は御國

第百廿三番

千八百七十六年十一月一日  
自獨理復を至寺島卿  
大獨逸皇帝ヨリ山村氏ニ給與  
ノ金時計壹箇差進スル云  
意云

別紙

3-2264

0107

mit einer Aufmerksamkeitsbestimmung in der  
zu bestimmen lassen zu wollen.

*[Signature]*

3-2264

0108

KAISERLICH DEUTSCHE  
MINISTER RESIDENTUR  
IN JAPAN.  
No 123

Yedo den 1. November 1876.

Einerseits Erfüllung befehlig mich  
in Folge meines Schreibens vom 21. September d. J.  
Sowei die mir gestern zugekommene Verfügung,  
welche Seine Hoheit der Kaiserin dem  
Botschafter in Eurer Excellenz Gegenwart,  
Herrn Yamamura, zu verlesen verbleiben,  
mit der Bitte ganz ergeben zu übersenden, die  
Ursache Herrn Yamamura übermitteln und

mit

Oder

den Minister der Österreichischen Botschaft  
Herrn Terashima  
Erfüllung.



第百二十三号 獨逸

目錄付了

以書簡致啓上候陳ハ去ル九月廿一日  
付書簡ニ續キ我國皇帝陛下ヨリ  
貴省官負山村氏ニ賜與スベキ袂  
時計昨日到着相成候ニ付則御送  
致申候間同氏へ御渡受取書為  
差出右ヲ當方へ御差送被下候  
様宜敷御取斗有之度此段得  
貴意候敬具

明治九年十月一日

獨逸

獨逸帝國公使館

獨逸國辦理公使

フォン・アイゼンテツヘル

寺島外務卿

閣下

第七号 馬濟

...

州 寺

局 局

關

...

...

...

...

...

...

...

...

外務省

3-2264

0111